

教育問題懇談会

～子どもの教育環境を大人が真剣に考える～



令和元年10月10日(木)に、県教委と県P連との「教育問題懇談会」を県庁別館で開催した。懇談会には、県教委から工藤利明教育長他教育次長・関係各課・室から計18名、県P連から池部英明会長他副会長・理事ら計22名が出席した。各郡市等P連・育友会から出された教育課題をもとに意見交換を行い互いの理解を深め合った。(以下、内容は抜粋して掲示)

大分県内16郡市等のPTA、育友会より提出された問題や県内単位PTA会長を対象に実施したアンケートを基に検討を重ね、今年度のテーマを「こどもの教育環境について」と設定。なかでも16郡市等で関心の高かった二つを柱に掲げた。

①教員人員確保について
②いじめ・不登校の対応策について

教員の不足を考える

年度当初の教員の欠員状況が、小・中学校合わせて37人で36校で不足。9月現在では、31人で若干の改善はみられたが4月以降の産休や病欠等の対応もあり、なかなか改善がはかられていない。欠員の補充状況について、欠員代替の臨時講

師の確保を県内6箇所にある教育事務所を採用の窓口として対応。市町村教育委員会、教育事務所、県教育人事課で教員の名前を登録し情報共有に努めている。教員試験においても新規受験者の確保に向け、県内外4会場(大分、東京、大阪、福岡)で説明会を行い、また県内外の14大学に、県の教育人事課職員が直接出向き受験者確保に取り組んでいる。そのかきあつて、新卒者の受験者は年々増加しているが、一方で既卒者の出願数が減る傾向にある。今後とも人材確保については、教員長、知事を通じて文科省に働きかけ、増員の要望をしていく。県教育長も、「大分県で先生をした人をキープすることが大事。再任用の方に教壇に立つてもらいたい」と見解を述べた。

不登校については「未然防止」「早期解決支援」「長期的支援」とポイントを分けて取組を推進。児童・生徒によって状況が違うため一人ひとりの状況に応じたケース会議の実施を情報共有をもって対応していく。不登校になり始めたのが一番大事だということや、欠席の1日目から3日目に電話連絡や家庭訪問をする「あつたかハート1,2,3」の徹底を心がけるとした。

県P連からも「文科省の働き方改革が進み、先生方が必ずしも行わなくてもよいという業務が増えれば、些細な気づきが増えるのは、という危惧がある。PTAとして協力できることがあれば、パートナーとして、子どものために頑張っていきたい」と述べた。

大分県PTA



はぐくみ

発行所
大分市大字下郡496-38
大分県教育会館2F
大分県PTA連合会
☎(097)556-9055

責任者
池部 英明

印刷所
大分市下郡3154の22
九州凸版印刷株式会社

http://www.oita-pta.com/

2-3
第28回
大分県PTA研究大会
佐伯市大会

教育長に要望書提出



大分県PTA連合会は、2月3日(月)、工藤利明県教育長に対し、令和2年度における「中学校3年生学力診断テスト」継続実施についての要望書を提出した。

一年を振り返って

大分県PTA連合会長としての初年を振り返りますと、各郡市の理事を始め、多くの方々に支えて頂いた年、正に「感謝」の年でした。変化著しい社会において、PTAを取り巻く環境も激変しています。そんな中、大分県P連は、時代の変革に負けることなく、家庭(教育)と学校(教育)を、家庭と家庭を繋ぐ活動、そして子どもたちの未来への夢と希望を、私たち保護者の子どものたちへの愛情と想いを紡ぐ活動を、これからも変わらず続けていきます。本年も皆様のご理解とご協力をお願いします。

「お父さんが教えてくれたよ」と差し出す紙には冬の季節が並んでいる。それも表にされて、今日の授業のためにお父さんが教えてくれたのだと言う。三年生のその嬉しそうな笑顔に「お父さんに有難うと伝えてね」と私▼またT小学校では、俳句授業で出来た句を画用紙にさし絵をつけて清書し、校長先生が毛筆で表題等をつけて下さり、地区合同文化祭へ出品。更に高学年の何点かは地区の方のご指導により会場で本人が吟詠。その出来ばえに子ども達も教師も、大々満足であったと言う▼学校、保護者、地域が手を携えて子どもを見守り育てることの大切さは語られているがこの姿は嬉しい。そこには、地域が子ども達に活動の場を提供し、一方、学校も子ども達も地域の活性化の一助となれていることに喜びを感じている姿がある▼前出の父親も然り、そこには子どもの日常を見つめる子どもたちのコミュニケーションを大切にしている姿がある▼反面子ども達の現実を目を向けると、個々の家庭は孤立し互いに子育てを行うというまでに至ってはいない▼夜、七時過ぎランドセルをしょって行き来している子どもにも出かい声をかけると鍵を忘れ家に入れないのだと言う。また遅くまでぶらぶらしている子どもに出会ったご婦人は、後日、ご近所や近くのマンションを訪れ、困っている子どもへの声かけをお願いしたのだと言う。改めて近所の方々とのコミュニケーションの大切さを感じる。▼今、私達に出来ることは、一人ひとりが「自分出来ることは何か」「しなればならないことは何か」の問いを持ち子どもを見守ることだ。

県P連副会長 母親部長 左藤 弘美

今年度、県P連母親部は、全単P会長研修会において、単独でグループ討議を実施しました。子どもたちを取り巻く環境について母親の視点から有意義な議論ができました。

県P連副会長 研修部長 小野 伸介

この一年間、池部会長を中心に新たな体制づくりに各郡市の理事と共に改善を図ってまいりました。県P連が実施している事業につきましても、皆さんに理解いただけよう

県P連副会長 教育部長 横松 寛二

今年一年、県P連副会長と教育部長として活動させていただきました。教育委員会では、県教育委員会との教育問題懇談会を実施し、教育現場の生の声を届けてきま

県P連会長 池部 英明

PTAを取り巻く環境も激変しています。そんな中、大分県P連は、時代の変革に負けることなく、家庭(教育)と学校(教育)を、家庭と家庭を繋ぐ活動、そして子どもたちの未来への夢と希望を、私たち保護者の子どものたちへの愛情と想いを紡ぐ活動を、これからも変わらず続けていきます。本年も皆様のご理解とご協力をお願いします。

分かりやすく工夫を凝らしていることも今後の課題であると感じています。PTA組織が創立され70年超。これまでのPTA活動により、現在の社会形成につながっています。これからの不易流行の理念で児童・生徒の健全育成と福祉増進のために活動し、会員相互のつながりを深めていただきたいと思います。一年間お世話になりました。

子育てする中で課題は、すぐに解決できないケースも多いですが、親と子が笑顔で互いを認め合い、絆を大切にしていけたらと感じます。各郡市の母親部活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。子どもの変化や気持ちを感じ取れる母だからこそ、できる活動は尊いものです。来年度も引き続き、ご支援をお願いします。

した。また、九P担当として、九州各県、政令指定都市の理事、役員と交流させていただきました。お話をうかがうなかで、どのPTAも時代に即して変化を求められていると感じました。大分県PTA連合会も池部会長のもと、組織、事業の見直しを進めていきたいと思えます。一年間、ありがとうございました。

「お父さんが教えてくれたよ」と差し出す紙には冬の季節が並んでいる。それも表にされて、今日の授業のためにお父さんが教えてくれたのだと言う。三年生のその嬉しそうな笑顔に「お父さんに有難うと伝えてね」と私▼またT小学校では、俳句授業で出来た句を画用紙にさし絵をつけて清書し、校長先生が毛筆で表題等をつけて下さり、地区合同文化祭へ出品。更に高学年の何点かは地区の方のご指導により会場で本人が吟詠。その出来ばえに子ども達も教師も、大々満足であったと言う▼学校、保護者、地域が手を携えて子どもを見守り育てることの大切さは語られているがこの姿は嬉しい。そこには、地域が子ども達に活動の場を提供し、一方、学校も子ども達も地域の活性化の一助となれていることに喜びを感じている姿がある▼前出の父親も然り、そこには子どもの日常を見つめる子どもたちのコミュニケーションを大切にしている姿がある▼反面子ども達の現実を目を向けると、個々の家庭は孤立し互いに子育てを行うというまでに至ってはいない▼夜、七時過ぎランドセルをしょって行き来している子どもにも出かい声をかけると鍵を忘れ家に入れないのだと言う。また遅くまでぶらぶらしている子どもに出会ったご婦人は、後日、ご近所や近くのマンションを訪れ、困っている子どもへの声かけをお願いしたのだと言う。改めて近所の方々とのコミュニケーションの大切さを感じる。▼今、私達に出来ることは、一人ひとりが「自分出来ることは何か」「しなればならないことは何か」の問いを持ち子どもを見守ることだ。

第28回大分県PTA研究大会

佐伯市大会

2月2日(日)、県内より関係者約650名が参加し、佐伯文化会館をメイン会場に研究大会が開催された。「家庭・学校・地域とともに考え、深めるPTA活動」を研究主題に、「つなぐ・つなげる・つながるPTA」佐伯の地より発信!! 2020」の大会スローガンのもと、午前の全体会に続き、午後は各分科会会場に分かれて活発な討議が行われた。

全体会

曾宮康生佐伯市P連会長の開会宣言に続き、池部英明県P連会長が「県P連では、新たな時代の要求や社会の変化に対応できる『生きる力』を子どもたちに育み、健全育成に取り組んでいる。本大会では家庭・学校・地域とのつながりを強化し、子どもをみんな育てるという思いを語り共有することで連携、協働を図るPTA活動の推進力・活力を探っていききたい」と述べた。続いて、鍛冶屋宏介大会実行委員長が「本大会は約2年にわたり準備を重ねた。子どもたちの健やかな成長のために、今日得た成果を各PTAの活動に活かしてほしい」とあいさつした。

また、広瀬勝貞大分県知事は「4月から実施される新学習指導要領は社会に開かれた教育課程の実現が改定の大柱。県では、コミュニケーションの導入や協力し合っ

つながる PTA



子どもたちの元気な姿がパワーの源

佐伯市こども・市民ミュージカルの団員97名による全体会前に行われたアトラクション。僕らはミュージック「僕とムーサの物語」&民話「でれすけぼうほう」を演題に、子どもたちが元気いっぱいの歌と踊りを披露した。最後に会場全体を巻き込み「パブリカ」を合唱した。

第1分科会 組織・運営

地域との連携を密に

「家庭・学校・地域とともに考え深めるPTAの組織運営」をテーマに約100名が参加し討議。

思いをつなげる

中津市立緑ヶ丘中学校P角徳幸会長は「小中と家庭・地域との連携『チャネル5』の活動をとおして」と題し発表。「地域の子どもの健全育成を目的に横のつながりを深め連携できる場として、平成11年に『チャネル5』を発足。5は、当校と校区内3つの小学校に各校区分主任児童委員を合わせた数。各校のPTA会長・副会長・OB、主任児童委員を役員とし、子



活発に意見を交し合う参加者

続けるために 変えていく

大分市立南大分小学校P平本泉会長は「学校・家庭・地域で繋がるPTA活動を目指して」と題し発表。「南小にはPTAとは別組織である16地区の子どもの会があり、加入率は100%であったが多くの課題を抱えていた。良さが伝わらず子ども会役員の苦勞が尽きないのはなぜか。地区の実態・活動の把握に努め、困りごとを地区で抱えるのではなくPTA組織の中で解消に向け協力し合うことが望ましい」と考えた。昨年度より子ども会をPTAに編入。学校

動として意義あることを表す。維持継続には意見を交し合う場を設け役員が交代しても思いをつなげていくことが大切。今後は保育園・幼稚園とも連携、チャネル5から6、7へと活動を広げたい」と報告。

と地区で役員の重複がなくなり保護者の負担を軽減。また他地区との情報交換・共有ができることで地区活動の見直しもつなげた。活動の必要性を見極め、やめるのではなく残すこともひとつの方法。やる意味を見い出せると強制感もなくなるのでは」と報告。討議では自治会とのコミュニケーションのとり方等について意見を交わした。

今年二十一年目になるわが家の子育てでよかったと思うことに、「読書が好きなこと」があります。

長女が生まれた二十年前は、ブックスタート運動が始まった頃でした。子どもたちの読書は、楽しい絵本との出会いから始まりました。読書の楽しい体験が続くように、先輩の皆さんや友人からのアドバイスをいただきながら、わが子の個性に合った本を考えた。子どもたちの子育てでした。その中で、子どもたちへの絵本の読み聞かせから、子どもたちが自分で絵本を開くようになり、さらに児童書や漫画から一般の書籍へ本との出会いが広がりました。本は購入を原則とはしながらも、県立図書館や町立図書館、学校図書館を利用することで、さらに本との出会いが広がりました。子どもの小学校の読書記録を見ると一年間で二百五十冊を超えることもありました。家族五人で県立図書館に通ったことも、懐かしい思い出です。子どもたちが自分で自由に本を選んで買えるように、クリスマスやサンタさんからのプレゼントが図書カードという年も何年かありました。

第2分科会 家庭教育

家庭での会話で 育つ考動力

「家庭の和を強め、親子がともに育つPTA活動の在り方」をテーマに約100名が参加し討議。

活動の裏にある仕組み

佐伯市立明治小学校P吹田貴史会長は「家庭の和を強め、親子がともに育つ明治小PTA活動の在り方」と題し発表。「児童数は159名。校区内の宅地化が進み児童数が増える一方で地域における地縁的なつながりが希薄化。そのため、活動には保護者と児童、保護者同士、子ども同士が交流できる仕組みを意識的に取り入れ、また保護者が育つと

いう視点を大事にしている。親子で同じ本を読む明治読書ウィークや登校時のあいさつ運動等で、保護者が主体性を持つ活動する姿勢が見られるのは、各活動に保護者や先生方の意見が反映されているからだと考え。前例踏襲でなく、見直すことがないかといった議論を深めることが高い参加率を維持し活動の継続に繋がる。その大人の姿から子どもも学んでいる」と報告。質疑では、参加率向上の工夫について意見交換を行った。

次会長は「家庭で考える『東中7ネットルール』」日常から取り組めること」と題し発表。「平成26年に生徒会が中心となり作成した『東中7ネットルール』の再確認・再徹底を図るため、保護者と生徒を対象にアンケートを実施。その結果、ルールを知りながら守られていないという実態が判明した。また52%の生徒がネットトラブルを経験した」という回答に対し、相談を受けた保護者は31%で、保護者が子どものトラブルを把握できていなかった。そこで、7つのルールを浸透させ家庭で話し合える機会を作ろうと、研修会を開催する他に、月一回、学校より発行される生徒指導通信を活用し啓発に努めている。今後も「何が効果的か」を考え、学校と連携し取り組んでいく」と報告した。

質疑では、保護者のネット



会場に向け発表する提言者

「読書の力は、すべての勉強の土台です。活字文化の長所は『想像力』と『思考力』を鍛えるという点にあるからです。』との恩師の話を思い返すとき、SNSなどでコミュニケーションの簡易化が進む社会では、読書の力が大切な生きる力になると思います。

日出町PTA連合会 会長 波津久 誠



記念講演(講演要旨)

心に寄り添い共に輝く

こころ応援家(心理カウンセラー) つだ つよし、氏

入口と出口と言葉のトライアングルとは?

1. PTAの活動は何のためにするのかを考える。(出口)
2. 出口を見つけたら、それを達成するために何が必要なのかを考える。(入口)
3. 出口は考えやすいが考え続けるのが難しいので言葉にして伝える。(言葉)

入口と出口を言葉でつないで伝え続けると1つの活動でも誰1人たり残さず、全員が共通理解して物事に進むことにつながると思われる。



子どものモチベーションをあげる方程式とは?

子どものモチベーションをあげるには、子どもと気持ちを合わせて、ゴールを合わせて、行き方を合わせて、小さなM(やってみようかな? という気持ち)に火がついた時に正しいやり方、知識を教える。モチベーション方程式は後ろから前へいく。

〈モチベーション方程式〉

K(ナレッジ=知識)+K(ノウハウ=正しいやり方)×小さいM(マインド=気持ち) (←M3)

- M-1 私とあなたの気持ちを合わせる作業
- M-2 目標を明確化する。自分たちの進むゴール地点を合わせる
- M-3 ゴールまでの行き方をシェアする。確認しあう

自分が輝くための行動とは?

1. 周りが輝けば後から自分が輝くという意識を持ってPTA活動に取り組むと気持ちが緩み落ちて活動できる。
2. 他人のためになることを探し行動に移して「ありがとう」を集める。この行動が自分を輝かせることにつながる。



M-1を実践

つだ つよし、こころ応援家(心理カウンセラー)

1976年、大分市生まれ。高校卒業後は、吉本興業で8年間芸人として活動。2015年からは大分県奨励事業として、学校復帰率98%のフリースクール「こころ応援塾」の運営を開始。2017年、学校法人田北学院、田北調理師専門学校の校長に就任。社会人の入り口に立つ生徒たちの心づくりに精力的に行っている。

つなぐ つなげる

第3分科会 人権・環境教育

つながりを深める活動

「家庭・学校・地域が手をつないで、お互いを大切にすると人権・環境教育の在り方」をテーマに約100名が参加し討議。

子どもへの思い

豊後大野市立千歳小学校企画委員会田崎新太郎代表は「家庭と学校とで、いっしょに育てる、にっこり笑顔の千歳っ子自他を認め、友達と仲良くできる子の育成」と題し発表。

「我が子の自己肯定感をさらに強く持たせたい親の思いから、月に一回2枚の色紙に親が子どものいい所を見つけてメッセージを書く」といって見つけ活動」を総務部企画委員が提案。10ヶ月間取り組み、



熱心に質疑をする参加者

意識を高める学び

佐伯市立東雲中学校P岩崎裕祐会長は「地域とともにあ

る学校・東雲と地域とともにある学校のためにPTAができること」と題し発表。「生徒がよく使うSNSは、いじめや命に関わる危険性を持つという危機感が保護者に少ないことから、PTAでは保護者・生徒を対象に人権の視点からSNSの危険性を考える

トでトラブルになった生徒はゼロだったが、日々変化するSNSに対応するためにはPTAでも研修を重ねる必要がある。保護者は単に子どものネットの使い方を指導するだけではなく、日頃から子どもとの会話を通して人権意識を高めていくことが大切」と報告。討議では使用時のルールについて意見交換が行われた。

「おしたちは島の宝」

姫島村立姫島中学校P磯崎辰徳会長は「島を愛し、未来に向かって主体的に生き抜く、姫島っ子の育成」学校と家庭・地域の連携を通して」と題し発表。「島内唯一の中学校は30世帯33名の生徒数。生徒数が年々減少する中、会員一人ひとりが「自分にできること」「自分がやるべきこと」を意識して取り組んでいく。幼稚園・小・中学校が合同で開催する体育大会の会場

第4分科会 広報・地域連携

エッセンスは故郷愛

「学校とつながり、地域とつながり輪を広げるPTAの在り方」をテーマに約100名が参加し討議。

準備や片付けを、小・中PTA A保体部が合同部会で計画し地域の方の協力も得て支援する。応援には村内70歳以上の方約300名も出席。日頃の学習の成果を地域に伝える良い機会となっている。島では姫島盆踊りや姫島中学校消防隊を三世代にわたり継承。全島民は子どもたちと面識がある



地域の伝統文化継承者として活躍する生徒の様子を動画で紹介

大人がつながる 育友会活動

日田市立日隈小学校育友会種口晋典会長は「トライアングルでつながる笑顔と感謝」と題し発表。「校区全世帯を会員に会費を徴収する当校育友会の加入率は100%。育友会や学校の行事を掲載した広報紙は校区全世帯に配る。紙面でボランティア募集を行うなど学校と地域住民の架け橋になっている。保護者が家庭で宿題の丸つけや時間計測を行う「マルモリ学習」と、地域で募集し参画した7名の放課後学習指導員による「ステップアップ講座」は、先生の丸つけ拘束時間の解決だけに留まらず児童の学習意欲の向上、児童と保護者・地域の方が触れ合う場となった。卒業児童の父親も役員として参加する「ひのくまおやじ倶楽部」は育友会活動に活気を与え学校行事を盛り上げる存在。父親同士の連携により地域の行事にも積極的に参加する。これらの活動を展開できるのは育友会が地域を含んだ組織だからこそ」と報告した。

特別分科会 パネルディスカッション さいき ドリーム・プロジェクト

「子どもたちの夢と希望を守る大人たちのとりくみ」をテーマに約200名が参加し討議。壇上に、コーディネーター他5名を迎えパネルディスカッションが行われた。始めに、曾宮康生佐伯市P連会長が「さいきドリーム・プロジェクト会議」の取組について発表した。



「9 to 7ルール」宣言についても意見発表

佐伯市では平成24年に会議を発足。佐伯市のPTA連合会、校長会等が属し協働で取組を推進する。「もしも、あなたがつらい思いをしているのなら、わたしたち大人は全力であなたを守ります」等の提言を重ね、いじめについて考える機会をなげかけている。

立場の違うパネラーより豊かな提案

子どもたちの夢と希望を守るために保護者ができることは? パネラーから意見発表。曾宮氏「気づき」:子どもは様子から、言にくいことがあったのかなと気づいて、声

かけができることが大切。岩本氏「環境とつながり」:保護者が子どもを認めてあげれば、友だちのいいところをみつけられる視点を持った子どもになると思う。



ミニ講演 大分の子どもが輝く「ほめ達」の魔法! 竹下 幸喜氏

「内容について一部抜粋」パネルディスカッション後、竹下氏による講演が行われた。逃げるのは恥だが役に立つ。戦う時は今ではない、惨めではないということ伝えるのと同時に、私たち大人の価値観を変えていくことも必要。竹下氏は、共通のキーワードは温かさ。どんな温かさを伝えられるのか。子どもとの関わりの中で大人の心が育っていると感じると助言。石井氏は、人との関わりが温かさを生む。家庭や学校それぞれの役割の中で互いを思いやるのが、いじめを減らし、夢や希望の中で子どもが成長できる環境に繋がると話した。

森山貴仁大分県立図書館学校・地域支援課主任社会教育主事兼課長は2校の提言についてそれぞれ「自分の身近な人間関係を土台に自尊心を育んだ人が地域を愛し地域の担い手になっていく」「活動を一層充実させるには新たな仲間を迎えることが必要。広報紙でデビューの機会を作るのも手。積極的に関われない方へ百聞百見は一験(経験)に如かず」と指導助言した。

思いを伝える三行詩

2019年度

三行詩コンクール
大分県最優秀・優秀作品

大分県PTA連合会は、2019年度「三行詩コンクール」の県内審査を行い、応募総数504点の中から、部門ごとの大分県最優秀作品と優秀作品を決定した。最優秀作品に選ばれた3名の受賞者に対し、学校で表彰を行い祝福した。

最優秀

小学生の部

豊後大野市立百枝小学校 4年 森 千聖瑠

右手にプチッとイボがある。

このイボがはずかしいと言われたしに
お母さんが「こまった時におすんだよ。」と、
教えてくれた。

わたしだけのまほうのスイッチ



中学生の部

竹田市立竹田中学校 3年 後藤 若奈

正直苦手な所はたくさんあるけど

こまっている時にそばにいてくれてありがとう
これからもよろしくね お父さん



一般の部

国東市立富来小学校PTA 徳丸 祐尚

娘が習いたてのひらがなで書いてきた

「おとうさん いつもありがとう」という手紙
人生の中で一番短くて温かい手紙でした



優秀

小学生の部

大分市立栗原小学校 2年 宮園 綺星

いつもは いもつとにゆ
ずるけど きょうだけ
わたしのママ PTAの
かえりみち

豊後大野市立三重第一小学校 1年 多田 壮汰

ばば まま ぼく
ねるときつなぐ
てと てと て

日田市立豊岡小学校 4年 高藤 佳音

私が作った玉子やき。お母さん
はうれしそうにおべんどう
に入れて会社に持って行く。
どんな顔して食べるのかな。

宇佐市立豊岡小学校 2年 森本 和愛

ちよっと小さくなったけど
ママのおひざは ずっと
わたしのとくとうせき

中学生の部

大分市立大東中学校 3年 藤本 茉優

バレないように泣いてても、
その努力は水の泡。ど
うしたの？ って聞いて
くる。その笑顔に救われる。

豊後大野市立大野中学校 2年 戸高 星来

お母さん やろうとした
のに なせおこる？
ちゃんとするから 静か
にしてて！

竹田市立竹田中学校 2年 一森 日菜

家族みんなでねていたら、
ポーズ一緒に笑っちゃう
愛ときずなは深いものだ

玖珠町立くす星中学校 1年 秋好 真央香

ごめんさない
その一言が言えないの。
本当は大好きお母さん

一般の部

豊後高田市立星学園PTA 上田 紅美

思春期の子どもはキモチ
はジェットコースター
一緒に のるよ いくつ
でも

国東市立福日小学校PTA 手嶋 宏美

「お母さん あのね。今
日学校でさ...」さみし
そうな顔で つぶやく
あなた。だけど お母さん
はうれしよ。話して
くれて ありがとう。

大分市立豊田小学校PTA 小澤 美香

ふたことて堪える母の甲
斐あって 増える会話
子どもの笑顔 見守る時
期の意味を知る

日田市立豊岡小学校PTA 井村 元子

小さな君を守るため、母は
強くなれました。小さな君
のがんばる姿に 母もかん
ばる勇気をもっています
小さかった君は、もう12才
さいりげない優しさが頼も
しい。君の母にさせてもら
えて、心からありがとう。

三行詩コンクールは「たのしい子育て全国キャンペーン」を推進する日本PTAが募集、表彰を行い、日頃から親子で話し合う大切さを社会全体に呼びかけることを目的としています。令和2年度三行詩コンクールの募集は、令和2年5月～6月を予定しています。くわしくは日本PTA全国協議会のホームページにも掲載予定です。



味覚の偏差値
東京に住むI子さんは、このお正月、母親のふる里大分に両親と共に帰りました。三日間という短い間で、おばあちゃんの「正月料理」の味をあれこれと味わい楽しめました。その味に影らんだ心は、「偏差値」に炎上。極上の味は、とてつもなく味覚の心を震え上がらせてくれたのでしよう。

百は ゴンドラ

漢字を習いはじめたA君は「百」をほとんど書きながら字の形が、ロープウェーのゴンドラに似ているように思えてなりません。

「二」を「たて」、「横」「斜め」に引き、出来上がった「百」。思いを乗せて出来上がった「百」。いった百の行列は、A君が創りあげた、ただひとつだけの「ゴンドラ」。「出発進行」を待っているようです。

身の回りの一瞬を切り取った子どもたちのくらしの言葉には、「遊び心」の楽しさが伝わって来ますが、本当は、手を抜かない、「心の遊び」の言葉だと思えてなりません。「遊び」は子どもの仕事。掛け値なしの遊びを飽くなく積み重ねている姿から出てくる言葉からは、「感動」が含まれています。一瞬の感動には、「涙」さえも含まれます。「人間の涙にはなんと詩があることか」(ハイネ)

三井住友海上の安心

MS&A 三井住友海上

www.ms-ins.com

令和2年度の「学生・子ども総合保険」の募集がはじまりました。補償内容を充実させてご案内しています。パンフレットをよくご覧になり、コースを選択して募集期間内にご加入ください。

通常加入締切日 3月31日

(取扱代理店 共同募集)

はぐく美保険サービス株式会社 フリーダイヤル 0120-56-8993
MS 大分中央株式会社 TEL 097-538-8880

事故の報告、受付は 「三井住友海上事故受付センター」
フリーダイヤル 0120-258-189

「はぐく美」では編集委員を募集しています。詳細については左記事務局までお問い合わせください。

大分県PTA連合会事務局
〒870-1559 60055
☎(097)559-6005

編集後記

▼僕のリュック。重さは電子レンジと同じ11kg。ある中学生の主張。背負う中身が希望であればそれは軽く、期待であれば重いだらう。(O)

▼かすかに花粉の気配を感じるこの時期。我が子の自立心と揺れ動く気持ちに寄り添う時間をすごした。春はもうすぐそこに来ているはず。(I)

▼長男の反抗期が落ち着き安堵したのも束の間、次男へバトンタッチ。兄弟の連続技に脱帽。静かに見守るのは困難。今こそ試される親力。(K)

▼我が家の冬はこたつで暖をとる。家族4人が体も心も互いの隙間を埋める唯一のときをここで過ごす。暖冬に雛の巣立ちを重ね物思う。(T)

第43回大分県PTA 広報紙コンクール

応募対象
県下の小・中・特別支援学校PTAで年1回以上発行した広報紙(平成31年4月～令和2年3月までに発行したすべての号を提出)

作品募集中

締切日 令和2年3月19日(木)
審査日 令和2年4月2日(木)
表彰式 令和2年4月16日(木)

「第43回大分県PTA広報紙コンクール出品についてのお問い合わせ」は各都市PTA連合会事務局を通し単位PTAに送付しています。